

# YES! FUTURE! 2012

Faculty of Dentistry Niigata University

Department of Dentistry

Department of Oral Health and Welfare

Medical & Dental Hospital

Graduate School of Medical and Dental Sciences

新潟大学歯学部

歯学科・口腔生命福祉学科



An aerial photograph of Niigata University and the surrounding city of Niigata. The university campus is centrally located, featuring several large, modern buildings with green and blue roofs. A prominent parking lot is visible in the foreground. The city extends to the waterfront, with a large body of water and a bridge in the background. The text is overlaid on the bottom portion of the image.

**新潟大学歯学部には  
歯学科と口腔生命福祉学科があります。**



新潟大学歯学部長  
前田 健康

## 社会に貢献する包括的医療人の育成

新潟大学歯学部は1965年、日本海側唯一の国立大学歯学部として設立されました。以来、新潟大学歯学部では地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として、輝かしい実績を残してきました。

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、平成16年から新設された4年制の口腔生命福祉学科があります。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的にマネジメントできる専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士という2つの国家資格を取得できる全国初のユニークなカリキュラムを提供しています。

歯学教育は、むし歯の処置や抜歯など職業的技術教育の比重が高く、また、その技術には生物学的、材料学的知識が不可欠です。また、卒前に実際の患者様での診療参加型臨床実習を実施する医歯学教育での特殊性があります。そのため、社会に貢献する歯科医師として求められる知識・技術・態度の3つを効果的・一体的に学べるよう教育カリキュラム改革に取り組んできました。平成18年にはその取り組み「学生主体の三位一体新歯学教育課程」が評価され、文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、教育改善に積極的に取り組み、高度な歯学教育を展開しています。

歯科医学・医療の研究組織であり、歯学科の卒業生の進学先ともなる大学院は平成13年から従来の歯学研究科と医学研究科が新潟大学大学院医歯学総合研究科として統合され、歯学系の教員・学生は口腔生命科学専攻に所属し、学際的な教育・研究にあたっています。平成20年には口腔生命福祉学科を基礎とする口腔生命福祉学専攻（修士課程）を、平成22年には同専攻に博士後期課程を設置し、保健・医療・福祉を統合した学際的研究の更なる推進を図っています。また、医歯学総合研究科口腔生命科学専攻は平成17年に魅力ある大学院教育イニシアチブ、平成20年に大学院教育改革支援プログラムに、平成21年に日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されるなど、大学院教育の改善を進め、国際性のある研究者、高度医療専門職業人の育成にあたっています。

加えて、研究体制の面では、平成20年より、全国11国立大学法人歯学部のネットワーク機能を活用し、得られた研究成果を社会に還元し、国民の口腔機能を維持・回復することを目的とした大学間連携研究「口腔からQOL向上を目指した連携研究」の基幹校として活躍しています。

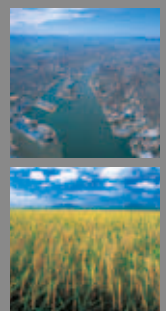
新潟大学歯学部では、これからも口腔や食べることの視点から包括的な医療人を養成し、社会に貢献できる人材を提供していきます。“すべての人の健康と質の高い生活を実現する”そのような志をもった学生諸君を待っています。

## 学びの場新潟

新潟市は日本一の大河、信濃川の河口に広がる日本海側最大の都市です。また、「水の都」と称され、古くから海運都市として繁栄してきました。新潟市は開港五港の一つとして、いち早く海外との交流を行ってきた開かれた都市です。現在では、高速交通網、空港、港湾の整備が進み、情報の発信都市としてますます発展し続けています。

新潟市は近代都市としての顔をもつ反面、海、山、川といった自然に恵まれ、また、コシヒカリ、新鮮なさかな、お酒に代表される食文化を魅了してくれる一面も持っています。

新潟大学歯学部は魅惑的な都市、新潟市の中央に位置しています。



# 歯科医学・口腔保健医療福祉を リードする情報発信基地

新潟大学歯学部・医歯学総合病院(歯科)

## 最先端の研究開発をリード

新潟大学歯学部は昭和40年に日本海側唯一の国立大学歯学部として開設され、東京医科歯科大学歯学部、大阪大学歯学部について3番目に古い歴史を持っています。以来、新潟大学歯学部では地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として、輝かしい実績を残してきました。

## 2学科で構成

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、平成16年から新設された4年制の口腔生命福祉学科があります。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメント出来る専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士という2つの国家試験受験資格が取得できる全国初のユニークなカリキュラムを提供しています。

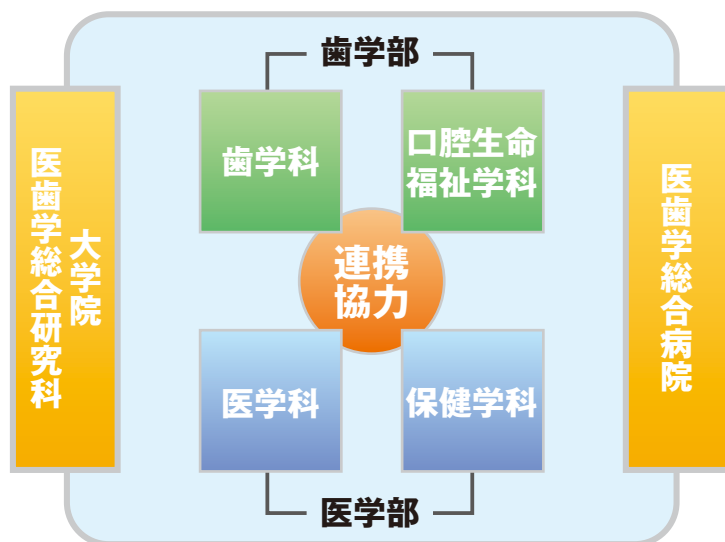
## 連携により実現する充実した教育環境

歯学部の臨床教育および臨床研究の中核を担っているのが医歯学総合病院(歯科)です。医歯学総合病院は、医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療・臨床教育・研究の実践を目指して平成15年に従来の医学部附属病院と歯学部附属病院を統合したものです。歯科医学・医療の研究組織であり、歯学科の卒業生の進学先ともなる大学院も平成13年から大学院歯学研究科と大学院医学研究科が新潟大学大学院医歯学総合研究科として統合されています。これより従来にもまして、医学・歯科医学、基礎・臨床などが有機的に連携した最先端の研究が進められています。

新潟大学歯学部では23名の教授をはじめとして、  
総勢約130名もの教員が熱意ある皆さんの入学を待っています。

## 新潟大学歯学部歯学科 アドミッションポリシー

1. 知識のみに偏ることなく、人間性豊かで相手の気持ちを理解することができる人
2. 歯科医学・歯科医療、口腔生命科学の研究に対して高い目的意識を持った人
3. 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
4. 強い学習意欲を持ち、広い学識の修得を目指す人





人間性豊かな考える歯科医師の  
養成をめざす

# 歯学科

Department of Dentistry

新潟大学歯学部では、患者さんの痛みや苦しみを理解できる、あたたかみある人間性豊かな人材を求めています。また、困難な場面に直面した際、自ら問題を解決できる能力をもつ、創造性豊かな考える歯科医師を育てることを教育目標の一つとしています。

歯科医療は、口腔という特殊な環境や病気の性質から、問題解決能力と繊細な治療技術が求められます。さらに、人間を相手に治療を行うのですから、あたたかみのある豊かな人間性が求められます。

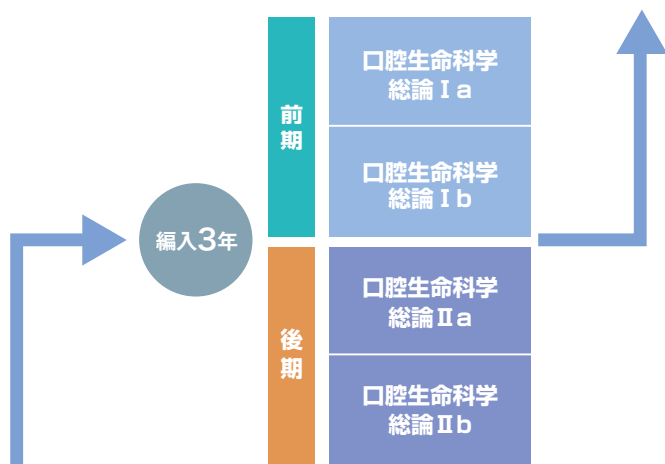
## 実践的な実習で確かな技術を習得

新潟大学歯学部では、従来の「歯」という小領域を中心とした学問の枠組みを見直し、歯学を口腔生命科学としてとらえ、これからの歯学界をリードする人材を育成する事を目的としています。学問の進歩、社会環境の変化などに対応するため、常にカリキュラムの見直しを行い、学生教育を行っています。

1年次には五十嵐キャンパスで他学部学生とともに教養教育に関する授業科目を学ぶとともに、医歯学総合病院(歯科)で歯科治療の現場を体験します。2年次になると学習と生活の場は旭町キャンパスへと移ります。「新潟発『食べる』」や「顔」といった教養的な科目に加え、一部の専門的な科目が開講されます。この中には生体内でおこるさまざまな物理・化学的現象を学ぶ生体

理工学や高度な分子生物学的内容を含んだ生化学、組織工学なども開講され、口腔生命科学を学んでいくために必要な基礎知識を履修し、3、4年次には講義コーディネーターにより工夫された専門教育に関する授業科目を学ぶとともに、治療技術を習得する模型実習が始まります。模型実習は少人数のグループごとにインストラクターが配置され、マンツーマンの指導が行われます。また、新潟大学歯学部が全国の歯学部にも先駆けて導入したコンピューターシミュレーションを用いたマネキン実習を行い病院で患者様の治療に当たる前に、より実践的な実習を経験することができます。さらに隣接医学の講義も開始されます。5年生に進級すると、実際の歯科臨床で遭遇するさまざまな疾患

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
前期	教育教養に関する授業科目 早期臨床実習Ⅰ	口腔生命科学 総論Ⅰa 基礎科学Ⅰ 教育教養に関する授業科目 早期臨床実習Ⅱ	コミュニケーション論 選択実習Ⅰ 口腔生命科学 総論Ⅰb	口腔生命科学 各論Ⅰ 隣接医学Ⅰ	総合口腔生命科学Ⅰ 選択実習Ⅱ 隣接医学Ⅲ	臨床実習Ⅱ
		後期	教育教養に関する授業科目	コミュニケーション論 選択実習Ⅰ 口腔生命科学 総論Ⅱa バイオメディカルサイエンス 基礎科学Ⅱ 教育教養に関する授業科目	口腔生命科学 各論Ⅱ 臨床英会話 隣接医学Ⅱ	



を統合的に診断・治療していくために必要な理論・技術を学びます。5年生の5月からは臨床予備実習が始まり、11月から約1年間の臨床本実習が行われます。臨床本実習では、優秀な指導教員のもと、実際の患者様を対象に実習が進められ、歯科医師として必要な基本的な技術の習得、心構えなどを学んでいきます。

講義内容(シラバス)は冊子として学生全員に配布されるとともに、インターネット(<http://syllabus.niigata-u.ac.jp/>)上でも自由にみることができます。なお、各講義内容、講義方法に関しては学生による評価を行い、各教員はこれらの評価結果をもとに教育方法の改善に努めています。



自分で調べ、学ぶ少人数グループ学習



熱意ある指導

## ゆとりと特色あるカリキュラム

新潟大学歯学部では平成12年度入学生から新カリキュラムのもとで学生教育にあたっています。新カリキュラムでは以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。

### 1 ゆとりある教養教育

従来、1年生に限定したため、過密になりがちであった教養教育に関する授業科目を2年生でも履修できるようにゆとりある教育を受けることができます。

### 2 早期臨床実習

入学後まもない1年生から養護・介護施設を訪問し、医療現場を体験する実習や病院における歯科治療の第一線にふれる早期体験実習を実施し、モチベーションの高揚をはかります。

### 3 専門教育に関する授業科目の統合、再編成

従来からある分野単位の講義・実習を見直し、分野の枠を越えた講義体系としました。専門教育に関する授業科目を口腔生命科学総論及び各論、総合口腔生命科学の3つに再編成し、それぞれの講義、実習は講義・実習コーディネーターが中心となって企画・立案され、実行されます。講義・実習内容の重複を避けることにより、密度の高いバランスの取れた講義・実習を提供します。

### 4 社会環境への対応

マルチメディア時代に対応するため、コンピューター実習を取り入れています。また、国際社会に必要な不可欠な語学力を養うため、1年次から4年次まで語学教育を拡大しました。

### 5 実習科目の一部選択制

従来、すべて必修であった実習科目に、一部選択制を導入しました。このことにより、研究に興味のある人は研究体験実習を、介護・ボランティアに興味のある学生はボランティア実習を選ぶことができ、多様な経験を積むことができます。

### 6 学外研修施設での臨床実習

臨床実習の中に歯科治療の第一線で活躍している経験豊かな歯科医師のもとに出向き、指導を受けるプログラムが用意されています。



患者様を迎える受付



充実した臨床教育



教授からの直接指導



マンツーマンでの指導

医歯学総合病院(歯科)で行われる臨床実習は、これまで学んだ歯学の専門的知識・技術を実際の患者様を対象に応用し、体験を通して理解を深めるために行われ、患者様と歯科医師との人間関係を含めて、実際的なことを学びます。

臨床実習は、5年次の予備実習から始まります。予備実習では各科のオリエンテーション、カルテ記載法、電算機入力法などを学びます。患者様を対象とした総合実習は本実習と呼ばれ、5年次の秋から行われます。患者様一人一人の口の中を総合的に診

療するため、学生の診療室(歯科総合診療部)が設けられ、歯科総合診療部の教員と各科の教員が連携して指導にあたっています。この指導体制は本院の特徴であり、バランスの取れた歯科医師の養成を目標としています。

また、歯科総合診療部での実習のほかに、より高度な臨床知識・技術の習得を目的として、臨床各科でも実習を行っています。歯科総合診療部で体験できない治療の実習や、教員の臨床示説による研修、歯科検診などの公衆衛生的な実習、X線写真の診断、麻酔の研修を行っています。各科に分散したこの実習は、歯科



お口の中を検査する



最適な治療方針を検討する



自分で作った入れ歯を合わせてみる



口腔外科治療



むし歯の治療

医師として必要なさまざまな知識を、各科の専門医が実習を通じて教育することによって、より深く、より幅広く身に着けるのに役立っています。

卒業後の歯科研修においても、臨床各科において専門的なさまざまな研修が、研修医・大学院生に対して実施され、新潟大学医歯学総合病院(歯科)では、密度の高い充実した臨床教育が行われています。

## 実践的な実習で確かな技術を習得

6年生の2月初めに卒業判定が行われ、卒業見込みが確定すると、2月前半に歯科医師国家試験を受験します。歯科医師国家試験は全国の主要都市で実施され、新潟大学歯学部卒業生は新潟市で受験します。試験約1ヶ月半後に国家試験の発表があり、めでたく合格すると歯科医師免許証を手にする事となり、歯科医師としての第一歩を歩み始めます。



研修医として技能向上に努める



大学院生として研究に打ち込む



臨床・研究の成果を学会で発表する

## 卒業後の進路

歯科医師免許を取得しても勉強していかなければならないことはまだまだあり、診療に従事しようとする歯科医師は1年以上大学に附属する病院や厚生労働大臣の指定する病院もしくは診療所で臨床研修を受ける必要があります(平成18年4月から必修化)。この場合、非常勤の歯科医師として、学生時代に習得した知識、医療技術をより高度なものにするため、優秀な指導者の的確な指導のもと、臨床研修をすすめ、自己の研鑽に努めます。

歯学部卒業後の進路はみなさんが考えているより狭くはなく、卒業生はさまざまな分野に進出し、活躍しています。病院や一般開業歯科診療所に勤務する者に加え、大学院に進み研究生活にはいり、博士号を取得する者、大学院で高度な専門医療技術を身につけ、博士号を取得する者、公衆衛生など歯科医療行政に進む者など、さまざまな進路があります。

また、日常の歯科診療のかたわら社会人で大学院に入学し、博士号を取得する者もいます。新潟大学大学院医歯学総合研究科では、このような社会人の生涯学習、リカレント教育の一環として、通常の大学院に進学できない人のための、昼夜開講制の大学院を開設しています。

## 充実した研修医教育

厚生労働省の方針により、平成18年度から歯科医師の臨床研修が必修化(歯学部を卒業して歯科医師国家試験に合格するだけではなく、1年間の臨床研修を行い、修了認定を受けなければ立ち立できないというシステムが導入)されました。この制度は卒業後の歯科医師の技術向上を基盤として、歯科医療全般の根本的な底上げを狙って始められたものです。

新潟大学では、伝統的に継続している臨床実習(指導教員の下で6年生が患者様を担当し、実際に治療を行う)に加えて、臨床研修(研修医が指導教員の下で治療を行う)の充実を図ってきました。本学における臨床研修の最大の特徴は、見学中心

ではなく診療参加型(研修医が治療を自分で行う)であることです。1年間に臨床研修医が担当する患者様の総数は全国でもトップクラスであり、様々な面で研修医をサポートする多くの指導教員がいます。また、研修医専用の居室や技工室(歯型の模型を作ったりする作業部屋)、診療台も整備されており、臨床研修中は自分の知識と技術を磨くことに専念できる条件が揃っています。新潟大学の歯科医師臨床研修プログラムは向上心のある研修医を全面的にバックアップするように組まれています。



「食べる」ことの視点から  
あらゆる人のQOL (生活の質) の向上を  
追求できる人材の育成をめざす

# 口腔生命福祉学科

Department of Oral Health and Welfare

歯科衛生士を養成する学校としては日本で最初の4年制大学課程であり、卒業により歯科衛生士に加えて、社会福祉士の国家試験受験資格が得られます。

## 専門ノウハウでスキルを磨く

1年生は五十嵐地区で行われる英語、体育実技、自然系共通専門基礎、人文社会・教育科学、医歯学などの教養教育に関する授業科目を中心に履修します。また、旭町地区で「歯学スタディ・スキルズ」と「早期臨床実習ⅠB」が開講されます。

2年生以上の専門教育に関する授業科目では社会福祉士としての科目を中心とした福祉学講座および歯科衛生士としての科目を中心とした口腔保健学講座の2講座を中心に行われます。

卒業判定に合格すると、4年生の1月には社会福祉士国家試験、3月には歯科衛生士国家試験を受験することができます。



学生によるプレゼンテーション

## 卒業により(学士口腔保健福祉学)の学位と 歯科衛生士及び社会福祉士国家試験受験資格を得られます。

	1年	2年	3年	4年
教養科目	英語			
	大学学習法、体育実技、自然系共通専門基礎、人文社会・教育科学、医歯学等			
専門科目		歯科衛生学、歯科衛生学実習、社会調査法、栄養学、医療倫理、高齢者・障害者歯科学、訪問歯科医療		
		臨床歯学演習、早期臨床実習ⅡB、人体のしくみ、疾病とその病態、衛生学・公衆衛生学、口腔の科学、歯科衛生士概論		
		歯科臨床概論、臨床歯科学、歯科診療補助		
		社会福祉原論、障害者福祉論、児童福祉論、高齢者福祉論、社会保障論、公的扶助論、保健医療制度、地域福祉論、社会福祉行政、社会福祉経営、権利擁護と成年後見		
			社会福祉援助技術論、社会福祉援助技術演習、社会福祉現場実習指導	
	早期臨床実習ⅠB		社会福祉現場実習、歯科衛生士臨床実習	

教養教育に関する授業科目
コア科目
福祉関係科目
口腔生命科学科目

## 教育理念と教育目標

### 教育理念

指導的専門職業人(歯科衛生士・社会福祉士)として、保健・医療・福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、これらを総合的に思考・展開できる人材を育成します。

### 教育目標

- 1 オーラルヘルスプロモーション(口腔の健康増進)を理解し、展開できる人材の育成
- 2 患者様・利用者の方が真に必要なとする保健医療福祉を総合的に提供できる人材の育成
- 3 自ら課題を発見し、その解決に向けた自発的な生涯学習を行うことができる人材の育成
- 4 幅広い関係者とのチームワークに基づく効果的な業務が行える人材の育成

### 少人数制主体的な学習

実際の現場で直面する場面に基づき、総合的に学習することができるよう少人数制による教育を実施します。

### 充実した教授陣

総合大学である新潟大学の特質を生かして、他の学部や歯学科、関係機関など密接に連携して第一線の専門家による教育が行われます。

### 充実した学習環境

新潟大学医歯学総合病院、行政関係施設、福祉施設などと連携し、将来の現場に即した実習を行います。

## アドミッション・ポリシー

- 保健・医療・福祉に対し高い目的意識をもった人
- 患者様の痛みや苦しみを理解できる人間性豊かな人
- 自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
- 強い学習意欲をもち、広い学識の修得を目指す人
- 地域医療・福祉への貢献・向上に努めたいと思っている人



PBLでの全体発表とまとめ



バイタルサインの測定実習



歯科衛生学実習



歯科の基礎を学ぶ

## 歯科衛生士とは

歯科診療所や病院の歯科口腔外科などで患者さんに対して、歯石除去や口腔衛生指導、歯科診療の補助行為を行うことが許されている歯科医療専門職の重要なスタッフです。また、市町村保健センターや企業の健康管理センターなどで、歯科保健サービスとして、むし歯などの予防処置や歯科相談・指導に従事する人もいます。歯科医療全体が治療から予防にシフトすることに伴い、歯科衛生士の活躍の場がますます広がっています。



## なぜ2つの資格が必要か？

食べることは生きるための基本であり、要介護者や障害者の方にとっても「おいしく食べる」ことは最も重要な生きがいです。しかし、単純に見える「おいしく食べること」一つとっても、食べるために歯や入れ歯の治療をする人、障害のリハビリテーションや病気の予防を行う人、食事や日常生活の介護をする人など多くの保健・医療・福祉関係者の十分な連携がなくてはその実現は困難です。そこで、口腔生命福

祉学科では、歯科衛生士と社会福祉士という2つの資格を取得することにより、口腔や食べること（摂食・嚥下）についての高度な専門知識をもったうえで、保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる専門家を養成し、こうした要介護者、障害者の方々が真に必要な適切な保健・医療・福祉サービスを総合的に受けられる社会を創ることを目指しています。



歯科衛生学実習



高齢者疑似体験実習



障害者福祉施設での体験実習



保育園での歯科保健指導

## こんなところで活躍しています。

### 歯科衛生士

- 歯科診療所
- 病院の歯科・歯科口腔外科
- 保健所・市町村保健センター
- 企業などの保健管理部門
- 大学・短大・専門学校 ほか

### 社会福祉士

- 特別養護老人ホーム
- 在宅介護支援センター
- 障害者療護施設
- 福祉事務所、社会福祉協議会
- 児童相談所、児童養護施設
- 病院 ほか



## 社会福祉士とは

老人ホームなどの社会福祉・介護保険施設や在宅介護支援センターなどで日常生活に困られている方を対象に、福祉の相談や指導・助言を行う福祉の専門家です。病院などで入院患者様の退院後の保健・医療・福祉サービスの相談・調整を行うメディカルソーシャルワーカーとして従事する人もいます。高齢化に伴い、様々な背景を持った介護を必要とされる方(要介護者)が増加しており、社会福祉士の仕事はますます重要になっています。

## 卒業後の主な進路

2007~10年度 1~4期生実績

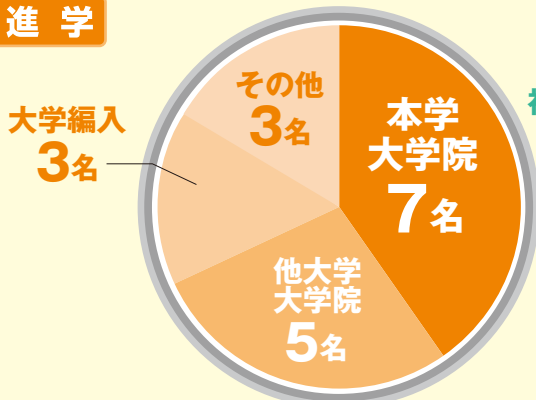
### 卒業後の主な進路としては

- 病院・歯科診療所における診療スタッフ(歯科衛生士)のほか、 ● 病院等におけるソーシャルワーカー ● 社会福祉施設の生活相談員、介護支援専門員などの入所者等の相談指導、マネジメントを行う職員 ● 行政における保健福祉部門(保健所、福祉事務所、市町村保健センター等)の専門職など ● その他、社会福祉協議会等の団体技術職員 ● 歯科衛生士または福祉関係職の専修学校・大学等の教員、研究者などがあげられます。

進学 **16%** 就職 **84%**

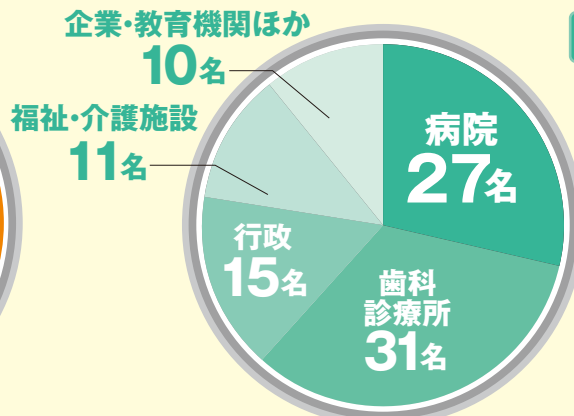
- 2007~10年度(第1期生~4期生)の進学・就職実績の内訳

### 進学



新潟大学医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻、同 医科学専攻、東北大学大学院、慶應義塾大学大学院、上智大学大学院、新潟大学歯学部歯学科編入、広島大学歯学部歯学科編入、九州大学歯学部歯学科編入 他

### 就職



新潟大学医歯学総合病院、富山大学医学部附属病院、長野赤十字病院、新潟医療センター、長岡赤十字病院、亀田総合病院、新潟県庁、新潟市役所、福井市役所、さいたま市役所、富山県社会福祉協議会、山形県歯科医師会立歯科衛生士専門学校、サンスター、埼玉県口腔保健センター、ワークセンター日和山、新潟市内地域包括支援センター 他

歯科医療をリードする  
医歯学総合病院（歯科）

# 医歯学 総合病院

Medical & Dental Hospital

新潟大学医歯学総合病院は、日本海側唯一の医歯学総合病院として、環日本海における歯科医療の拠点として活動しています。医歯学総合病院では150人以上の教員が診療に従事し、学生、臨床研修医の教育にあたっています。



## 専門歯科医療の拠点

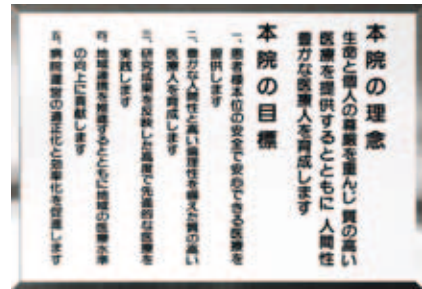
医歯学総合病院の歯科診療部門には町の歯医者さんではあまり目にすることのないようなさまざまな診療科があります。各診療科では通常の歯科治療に加え、それぞれの専門領域の診療を行っています。また、きわめて先進的な治療を必要とする患者様に対しては、各診療科ごとに専門外来をもうけています。たとえば、口の中の気になる人に対しての口臭外来、歯の色が変わって悩んでいる人に対する変色歯外来、歯にかぶせた金属によりアレルギーを起こす人のための金属アレルギー外来、いびきに悩む人のためのいびき外来などが開設され、各分野の専門家が治療にあたっています。

さらに、医歯学総合病院の歯科診療部門では障がい者や高齢有病者の治療、唇顎口蓋裂の治療、顎関節の治療を、各診療科の協力のもとに行っています。また、口の中にできた悪性腫瘍(がん)やあごの骨折などに対しては、歯科麻酔科による全身管理下のもと大がかりな手術も数多く行われています。近年ではさまざまな病気をもつ患者様に対し、短期間の入院により、集中的に歯科治療なども行っています。

医歯学総合病院には、新潟市内はもとより遠方からも、一日平均500人を超える患者様が歯科診療のため来院しています。患者様の数が多いことは、臨床研究や臨床技術の向上につながり、さらに、学生の臨床教育や歯科医師、研修医の臨床研修の充実につながります。

また、医歯学総合病院の歯科診療部門では、最先端の歯科医療をはじめ、あらゆる分野の歯科医療を行うとともに、歯科総合診療部での学生臨床実習を通して歯科医師を養成しています。

医歯学総合病院の歯科診療部門では、常に診療の向上を目指して最新の治療技術と診療機器を使い、環日本海の歯科医療の拠点病院として患者様の診療にあたっています。



マイクロスコープを用いた歯科治療



手術室での手術



外来での小手術



患者様に優しい画像診断

## 医歯学総合病院の歯科診療関連部門

新潟大学医歯学総合病院では歯科診療部門として4診療科、15診療室、5診療部を有し、特色ある外来も24部門が用意されています。環日本海における歯科医療の拠点として活動をしています。病院では150人以上もの教員が診療に従事し、学生、臨床研修の教育にあたっています。



## 特色ある専門外来

口臭外来  
CAD/CAM外来  
変色歯外来  
歯の萌出障害外来  
いびき(睡眠呼吸障害)外来  
顎変形症外来  
歯周組織再生外来  
歯周病リスク診断外来  
口腔機能検査外来

金属アレルギー外来  
味覚外来  
くちのかわき(ドライマウス)外来  
歯の移植外来  
培養粘膜移植外来  
スポーツ歯科外来  
歯科心身医学外来  
歯科ペインクリニック外来  
有病者歯科外来

障害児者の歯科治療外来  
局所麻酔アレルギー診断外来  
口腔腫瘍外来  
顎顔面補綴外来  
口唇裂・口蓋裂外来  
摂食・嚥下リハビリテーション外来

歯学治療は急速に進歩しています。身体にやさしいさまざまな材料の開発・応用、学問の発展による診断技術の向上、かみ合わせ(咬合)の仕組みの解明、コンピューターの歯科治療への導入などが行われています。新潟大学医歯学総合病院ではアカデミックマインドに立った歯科治療の開発、診断、応用がなされています。また、複数の専門家が集まり、診療チームをつくり、難しい症例に対しても積極的にアプローチし、治療し、良好な成績をあげています。

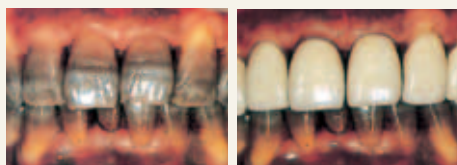
### 口の臭い、気になりませんか (口臭外来)

口臭外来には口臭の原因物質である揮発性のイオウ化合物を検査するガスクロマトグラフィーという分析機械(写真左)がおいてあり、口臭の予防、診断、治療を行っています。右写真は典型的な口臭患者様の口の息を計ったもので、3種類のイオウ化合物が同時に検出されているのが分かります。



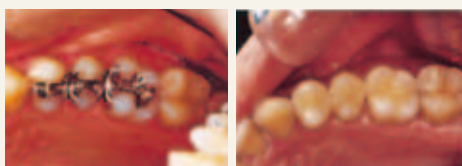
### 歯の色を白くする (変色歯外来)

子供の頃、ある種の薬を飲み続けると、永久歯にひどい着色をおこします。このような歯に対して、本来の歯の「白さ」をもどすために、歯の表側の表面を極薄く削り取り、薄いセラミック材でできた歯のお面をつくり、特殊な接着材で貼付ける方法がラミネートベニア修復法です(右写真)。その他に歯の外傷や加齢などにより黄ばんだ歯を漂白するホワイトニングや歯のマニキュアによって歯を白くすることができます。



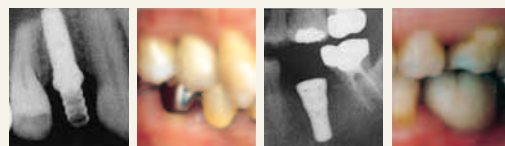
### コンピューターで詰め物をつくる (歯の診療室)

CAD/CAM装置という加工装置を使うと、これまで歯科技工士さんの熟練した技術が必要とされていたセラミックの詰め物を、歯科医師によってすぐにつくることができます。コンピューターが削られた歯の形を自動的に認識し、精度が高く美しい詰め物を削りだします。診療をうけている患者様のそばでつくることもでき、治療の回数を減らすことも可能です。



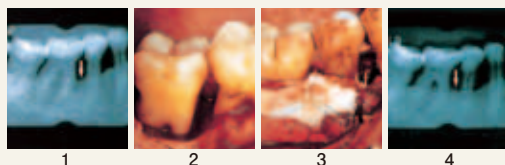
### 第三の歯 (インプラント治療部)

失ってしまった歯の部分に金属の支柱(インプラント)を植えて歯の代わりにする治療が広く行われるようになってきました。歯がなくなってしまうと、噛みにくいのはもちろん、残った歯の歯ならびも悪くなります。歯茎を切り開き、あごの骨に穴をあけ、インプラントを植えます。インプラントの周りに骨ができ、傷が治ると、その上に、冠をかぶせます。エックス線写真ではインプラントと骨がくっついている様子がよく分かります。



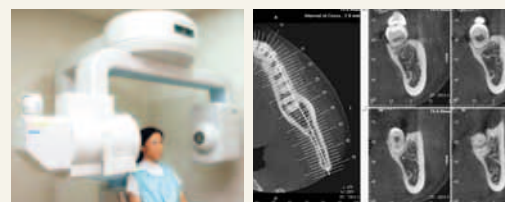
### 失った骨、歯茎をつくる/GTR法 (歯周組織再生外来)

歯周病(歯槽膿漏)が進行すると、歯茎の腫れや出血にとどまらず、歯を支えている骨が溶けていきます(写真1)。この失われた歯茎や骨を再生させる最新の治療法がGTR法です。歯茎を切り開き、病気の部分を取り除くと、骨が露出しますが(写真2)、ここに特殊な膜をおき、傷の治りを待ちます(写真3)。1年後には骨ができたことがエックス線写真で確認できます(写真4)。



### 歯顎顔面用コーンビームX線CT装置 (画像診断・診療室)

待望のコーンビームCTが2008年5月に導入されました。撮影時間は10秒足らず。アームが頭の周りを1回転するだけで、縦・横・奥行き、どの方向も均等で精密な分解能を備えたボリュームデータが得られます。撮りたい部分を絞って撮影すれば、細かいところをさらに明瞭に観察できます。X線被曝も通常の医科用CTと比べるとずっと少なく、インプラントの術前診査や、埋伏歯と周囲歯周組織の評価などで活躍しています。右の写真は埋伏歯の診断画像です。



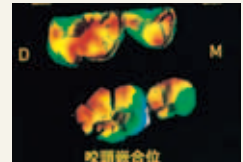
### いびきに注意 (いびき外来)

いびきのひどい人は昼間の眠気が強くて、仕事上のミスや交通事故を繰り返していることがあります。これは眠っている間に呼吸が止まり、窒息状態になり、そのたびに睡眠が中断されることで睡眠不足になっているためです。これが「睡眠時無呼吸症候群」と呼ばれるもので、放置すれば突然死やさまざまな病気を引き起こします。右のようなマウスピースを口の中に入れて、レーザーでのどの奥を広げるなどの治療があります。



### 噛み具合を色で見る (義歯診療室)

上と下の歯のかみ合わせの様子を地図の等高線のように、色で表す装置が設置されています。強く噛み込んでいるところはコンピューター画面上で青く表示されています。色の表示によって上と下のどの歯がどのように接触しているかが簡単に調べられ、よりよい噛み合わせの冠をかぶせることができます。



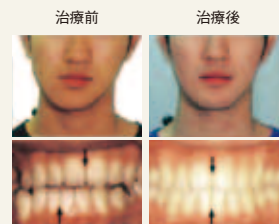
### X線テレビ撮影装置 (加齢歯科診療室)

ものを飲み込むメカニズムを知ることは、お年寄りが増えた現在、介護をする上で、非常に重要になってきています。このエックス線テレビ撮影装置を用いると、患者様が食べ物を飲み込んだ様子をはっきりと知ることができます。この装置は少ないエックス線の量で、ものを飲み込む様子を連続的に観察することができるので、飲み込みの障害の診断に効果を発揮しています。



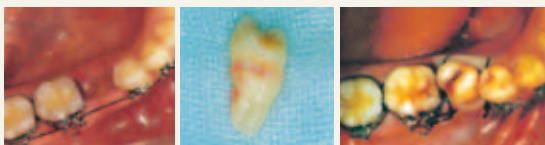
### 手術で歯ならびを治す (矯正歯科診療室)

歯ならびの悪い人の中にはあごの骨が大きかったり小さかったり、あるいは非対称であったりする人がいます。このような人に対しては、ふつうの歯ならびを治す方法だけでは不十分で、歯ならびの治療を専門とする矯正歯科医と手術を専門とする口腔外科医がチームをつくり、共同で歯ならびの治療を行います。



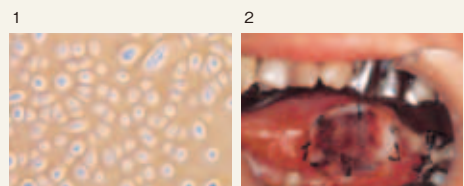
### 歯を移植する、保存する (歯の移植外来)

歯を抜かなければならない場合、親知らずなどをその部位に移植して、かみ合わせ機能を回復させる治療法があります。また、比較的健康な歯を抜いた場合、その歯を凍らせて保存しておき、後日解凍して移植する方法もあります。どちらの場合も、移植した歯が良好に生着すれば他の健康な歯と同様の機能を果たすようになります。写真は、下の歯が欠損した部分に上の歯を移植した場合です。



### 口の粘膜を再生する (培養粘膜移植外来)

培養粘膜移植とは「自分の細胞を培養技術を使って増やし、自分の身体に戻す」という方法です。口の中の手術やケガなどによって口の粘膜が欠損することがありますが、縫い寄せられないような大きな傷に対して、あらかじめ口の粘膜の小片を採取、培養して細胞を増やしておいて(写真1)、欠損した部分に移植する(写真2)ことができます。皮膚を移植する場合や動物の材料を移植する場合に比べて、術後の障害は少なくなります。



最新の研究機器を導入し  
口の中のさまざまな  
研究を行う

# 大学院 医歯学 総合研究科

Graduate School of Medical and Dental Sciences

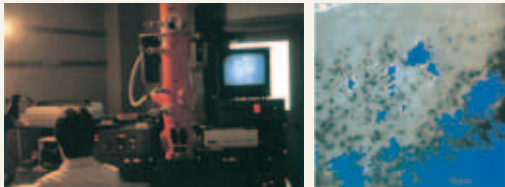
新潟大学歯学部では最新の研究機器を導入し、口の中のさまざまな研究を行っています。むし歯や歯周病といった歯医者さんの治療に関係することはもちろんのこと、一見、歯の治療とは無関係に思えるような「口の科学」の広範な研究を行っています。



歯学部には所属する教員の力のもとより、若くて柔軟な頭をもった大学院生の力が最新の研究を進める原動力です。新潟大学歯学部で得られた研究成果は国内はもとより国外でも高い評価をうけ、数多くの英文雑誌に掲載されています。最新の研究成果は学術分野の進歩に貢献しているばかりでなく、歯科臨床に応用され、新潟大学歯学部は日本、世界の歯科医学研究の情報発信基地として活躍しています。

## 謎をひもとく最新の電子顕微鏡

これまでの電子顕微鏡は小さな構造の内部をみるものでしたが、電子エネルギー損失分光電子顕微鏡 (EELS) は、物質の形と組成を同時に観察することのできる最新の電子顕微鏡です。骨がつくられる瞬間をとらえたのが、右の写真です。骨をつくる細胞(骨芽細胞、OB)によって、青色で示すカルシウム (Ca) の沈着がおこり、徐々に骨 (Bone) がつくられる様子がわかります。日本の大学で最初に設置された研究機関が新潟大学歯学部です。



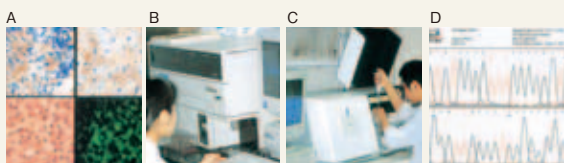
## レーザー光線で見える

レーザー光線とコンピューターをつかった最新の顕微鏡が共焦点レーザー顕微鏡です。からだのいろいろな組織や細胞の細かい構造を生きたままでも観察することができ、また非常に厚い標本も観察できるという利点があります。また、コンピューター処理により、細胞の大きさなどが瞬時に画面上に表示でき、生物学研究での応用価値は広い顕微鏡です。



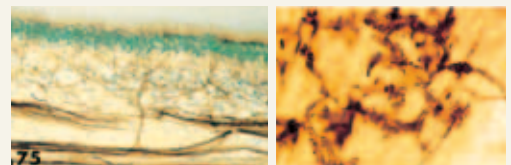
## 歯周病になりやすい人、なりにくい人

歯周病(歯槽膿漏)は歯茎中の白血球(図A)が歯茎や骨を破壊することにより進行します。白血球の種類や役割は、フローサイトメトリーという細胞測定装置(図B)を用いることにより、簡単にかつ定量的に調べることができます(図C)。また生まれつき歯周病になりやすい人がいるようです。歯茎や骨の破壊に関係する遺伝子(図D)を調べ、歯周病の診断に役立させています。



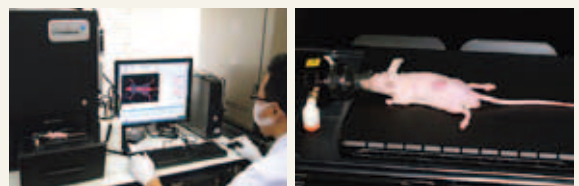
## 歯の痛み、噛みごたえのセンサー

歯にはたくさんの神経が来ています。冷たいものを飲んだときの痛み、虫歯のときの痛み、歯と歯の間に髪の毛1本挟まったときの感覚も神経が伝えます。歯に来ている神経を目にするのは難しかったのですが、特殊な方法で神経線維を染めだすことができるようになり、その詳細がわかってきました。



## 人工的な骨を近赤外線で見える

ヒトの細胞から人工的に臓器組織を創ることを組織工学といいます。基礎研究と臨床医学の橋渡しをする役割を担っているとも言えます。右写真はヌードマウスの背中にヒトの骨を作らせているところですが、このような技術開発とともに重要なのが、その性能を評価する技術を開発することです。左写真はこの人工骨の骨形成活性を近赤外線蛍光イメージングによって、マウスを傷つけることなく評価しようという試みです。比較的安価な装置ですが、被曝もなく、短時間のうちに定量的の高い評価ができるというメリットがあります。



## 食べ物を飲み込む

健康なときには何の苦もなく食べ物を飲み込めますが、お年寄りや脳卒中の患者様では飲み込む機能に障害がみられます。右写真のように食べ物が気管に入ると、むせて苦しい思いをしたり、時には肺炎で亡くなることもあります。歯学部では食べ物を口に入れてから飲み込むまでを最新の設備を使って総合的に研究し、写真のように上手に飲み込めない患者様の訓練や治療を行っています。



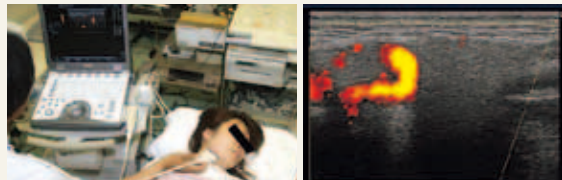
## 食べるための脳の仕組み

食べるためには脳のどの部位が重要なのでしょう？頭の外から脳を磁気で刺激し(左図)、食べるための筋肉の反応を調べるための研究が進められています。「食べる」ことへの脳の関わりが詳しく調べられています。



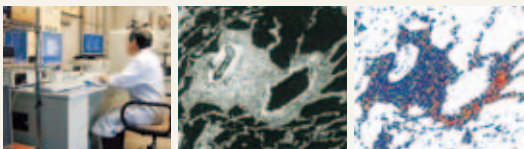
## 超音波で心の揺らぎを科学する

ストレス社会と言われる現在、ストレスに起因していると思われる様々な病態が注目されています。誰もが経験されたことがあると思いますが、緊張による口の渇きもその一つです。唾液は血液から作られますので、超音波診断法を使って唾液腺内の血流の変化を評価したところ、ストレス等による自律神経異常が定量的に評価できることが示唆されました。新潟大学歯学部ではこの結果を利用して、ストレスの新たな評価法やドライマウスの新たな診断法の確立を目指しています。右写真は超音波診断を行っているところです。



## 元素分布を目で見る

電子線マイクロアナライザーは、電子線を試料に照射し、非常に狭い領域にどのような元素が存在するかを分析する装置です(左図)。金属材料、無機・有機材料、生体生物試料を問わず、物質構造の分析には不可欠の装置です。この装置に高速マッピング装置が附属しており、原子の濃度分布がカラーで表示されます。右2枚は、塵肺患者の肺組織切片を分析したもので、中図は形態を示す白黒写真で、右図は珪素の濃度分布をカラーで表示した結果です。



## 口の中の細菌

むし歯や歯槽膿漏は一種の細菌感染です。口の中にはさまざまな細菌がありますが、これらの病気の原因となる細菌については分からない点が多くありました。嫌気グローブボックスは酸素を嫌う細菌を培養する装置で、これを使うことにより口の中の細菌が、酸素を必要とする細菌より酸素を嫌う細菌の方が圧倒的に多いことが分かってきました。



## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択

研究科 口腔生命科学専攻が計画した「留学生大学院教育の実質化による国際貢献」が、文部科学省の「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択されました。

※「魅力ある大学院教育」イニシアティブについては、  
日本学術振興会ホームページ (<http://www.jsps.go.jp/j-initiative/>) を参照願います。

## 海外の教育研究機関との交流

新潟大学歯学部は世界各国の大学と研究交流をしています。本学部が中心となって大学間で姉妹校提携している大学として、米国ミネソタ大学(昭和57年度)と中国ハルビン医科大学(平成5年度)があります。また、学部間では、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部(平成元年度)、バングラディッシュ・ダッカ大学(平成6年度)、中国昆明医学院口腔医学系(平成7年度)、ルーマニア・カロールダビラ・ブカレスト医科薬科大学歯学部(平成7年度)、フィリピン大学歯学部(平成8年度)、中国湖北医科大学口腔医学院(平成8年度)、マニラ・セントラル大学歯学部(平成9年度)、ガジャマダ大学歯学部(平成9年度)、中国上海第二医科大学口腔医学院(平成11年度)、中国吉林大学口腔医学院、メキシコ・コアウイラ自治大学歯学部(平成11年度)、バングラディッシュ・BSM 医科大学歯学部、タイ・タマサート大学歯学部、プリンスオブソクラ大学歯学部、フィリピン・イースト大学歯学部、バングラディッシュ・ユニバーシティ歯科大学(平成12年度)、バングラディッシュ・シティ歯科大学、スリランカ・ペラデニア大学歯学部(平成16年度)、インドネシア大学歯学部(平成19年度)との姉妹校協定を締結しています。これら各大学との共同研究、セミナー開催など活発な研究交流が行われています。

## 外国人留学生・教員の受け入れ

新潟大学歯学部には世界各国から最新の歯科医学を学びに多数の留学生が在籍しています。これら外国人留学生は五十嵐キャンパスで日本語教育を受けた後、大学院医歯学総合研究科に入学し、日夜研究に励んでいます。平成22年5月現在の受け入れ国としては、バングラディッシュ、インドネシア、ポリヴィア、ニカラグア、ペルー、中国、チュニジアの7カ国に及んでいます。また、大学院修了後、研究成果により教員として採用され、学生教育にあたっている人もいます。

## 教員の海外研究派遣

海外の共同研究や研修のため、留学する教員も多数います。留学先は欧米各国ならびにアジア諸国と広範囲です。海外研究により本学部における教育・研究内容を広く紹介して意見交換を行い、本学部でも教育・研究の発展に反映させています。また、積極的に海外で開催される国際学会にて研究成果を発表する教員も少なくありません。

## 日露医学交流

新潟大学歯学部は環日本海歯学協力懇話会の代表幹事校として、日露医学交流に貢献しています。日本とロシアで1年交代で開催される日露医学交流国際シンポジウムに積極的に参加しています。



バングラディッシュ・シティ大学での講演会



大学院生の受け入れ



外国人教員による教育



前川 裕貴  
歯学科6年

## 充実

もう今年で入学して6年目になるのか…と思うと本当に時間が経つのは早いなど実感しています。今、6年間の新潟大学歯学部での生活も終盤に差し掛かり、改めて今まで過ごした時間を振り返ってみると、「充実」という言葉が一番当てはまる気がします。なぜなら6年という長い間、クラスメイトと一緒に講義を受け、実習を行うことで絆が深まり、また部活動を通してかけがえのない仲間や先輩・後輩に巡り会うことができたからです。特に部活でできた仲間とは長い時間、共に汗を流し一緒に笑ったり泣いたりして、何でも話すことのできる親友を作ることができました。やはり6年間かけて築きあげた、このような人間関係は今後歯科医師として社会に出てからも大きな財産になると確信しています。

また、卒後歯科医師として臨床に携わっていくにあたり、新潟大学歯学部で教育を受けると大きなメリットがあります。それは5年生の秋から約1年間、臨床実習で学生が実際に患者様を治療することができるという点です。僕も現在、臨床実習を行っています。この臨床実習を通して治療を進めていく中で、今まで学習してきたこと、覚えてきた知識をより深く理解することができるだけでなく、実際に患者様を治療することの難しさや、コミュニケーションの大切さなど、模型での実習だけでは感じられない多くのことを学習することができました。一生懸命治療して患者様に「ありがとう」と言われたときは本当に嬉しいです。また、治療中に疑問に思ったことは自主学習するよいきっかけとなります。ただ先生から講義を受けるだけでなく、自分で疑問に思ったことを自分で調べるといことはとても大切なことだと考えています。このように、実際に働いてみないとわからないような経験や感覚を学生のうちに体験できるということは本当に貴重だと思います。

僕は新潟大学歯学部で6年間の歯科医学教育を受け、今後歯科医師として、医療に従事していくことは毎日が勉強であり、また歯科医師にはそれだけの責任と魅力があることを知ることができました。そして多くのひととの関わりの中で自分自身を成長させることができました。これから歯科医師として生きる長い人生が待っています。新潟大学歯学部での生活を通して得ることのできた、全てのものを活かし、精一杯頑張ろうと思っています。今後も“充実”した人生を送りたいと願っています。



鈴木 拓  
歯学科4年

## 歯学科ってどんなところ？

歯学科ってどんなことを勉強しているんだろう？どんな場所なんだろう。あまりイメージの湧かない人が多いと思います。そこで僕は入学してからの3年と半年の学生生活について紹介したいと思います。歯学科は6年制でそのうちの1年間は五十嵐キャンパスという場所ですべての学部と一緒に教養というものを学びます。ここでは自分の興味のあることを自由に学ぶことができます。2年になると旭町キャンパス（新大病院）という場所に移動し、歯学部ならではの専門科目を中心に学習することになります。まずは臨床科目の前に基礎科目を履修することになりますが、細胞とはなにか？神経とはなにか？DNAとは？等々生体に関わるすべての事柄について一から丁寧に指導して下さるので高校のころに物理を選択していた人も安心して大丈夫です。また、新大歯学部は非常に実習が充実していて、歯科材料の扱い方を学ぶ実習、今話題の再生医療に関する実習等様々な分野の実習を時間をかけてじっくり行う事ができるのも特徴です。1、2年次には早期臨床実習というものもあり、様々な診療科を見学することができるので、自分の将来像もイメージしやすいです。また、講義はだいたい4時には終わるので、部活やバイト等自分のしたいことをする時間も十分に確保できます。歯学科は1学年40人とうしても狭いコミュニティです。積極的にいろんな活動に参加して友達をいっぱい作るのがたのしいキャンパスライフを送る秘訣だと思います。最後に…学食おいしいです！



金子 絵里奈  
口腔生命福祉学科3年

## 新大歯学部口腔生命福祉学科で充実した大学生活を

私の周りには「新大生だから挑戦できること」「歯学部生だから経験できること」「口腔生命福祉学科だからできること」がたくさんあります。例えば海外の歯学部との国際交流。春休みに4日間、お二方の先生と学生4名で韓国を訪問し、安東科学大学の教員の方々と交流や檀國大学の付属病院の見学など貴重な経験をさせていただきました。そこでは世界の広さを自らの肌で強く感じ、同時に自分の歯科に対する想いを再認識することができました。次に新潟大学歯学部総合病院の医科でのNST (Nutrition Support Team) の見学。これは2年生で栄養学の学習をしたことがきっかけで、実際に病棟でどんな栄養サポートが行われているのか興味を持ち、見学させてもらえることになりました。歯科衛生士が医科にどのように関わっていくことができるのか、その可能性を考えてみたいと思っています。

また歯学部手話サークルでは部長として会の取りまとめをしています。活動内容としては、週に1回外部から先生をお招きして、手話での日常会話、歯科医院のチェアサイドでの会話を練習しています。手話による歯科保健指導を目指して奮闘中です。その他にも、私はバドミントン部に所属していて、大会に向け、歯学科を含めた先輩、後輩、仲間と日々練習しています。学年や学科を超えて交流できる部活の場は、私の生活の中で大切な存在です。大学生活の価値をどれだけ高められるかは自分次第です。与えられた課題や実習をこなしているだけでは、せっかくの4年間がもったいないと思います。「新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の学生」という資格を最大限に活用して、これからも色々なことにチャレンジしていきたいです。卒業を迎えた日、自分の4年を振り返ったときに満足できるような、後悔のない大学生活を送っていこうと考えています。



**堀野 一人**  
新潟県立吉田病院歯科口腔外科  
昭和60年卒業

## ようこそ新潟大学歯学部へ

北海道函館市出身の私がなんで新潟大学歯学部へ、と何度も聞かれた覚えがある。確固たる信念の元を選んで進路ではなかったし、特に大きな理由があった訳ではない。しかし今は、はるばるやってきた新潟大学歯学部を卒業して新潟の地で歯科医師としての仕事をできる事に誇りを持っている。新潟という地には素晴らしい風土、暖かい人間性があるからである。卒業後は大学で教育や研究に情熱を傾ける、開業して地域医療に意欲を燃やす、私のように病院歯科に勤務し、医科との連携の中で二次歯科医療に従事する、などの進路がある。限られた進路ではあるが、その中で自分を磨き、常に前を向く。そんな生き方の基礎を作ってくれたのが新潟大学歯学部であったと思う。歯科医師過剰時代と言われて久しい。しかし、だからこそやりがいがあると言える。新潟大学歯学部は君達の努力を無駄にはしない。前を向く限り常に背中を支えてくれるところである。来たれ！大志ある諸君よ！



**山田 浩之**  
新潟県長岡市開業  
昭和62年卒業

## 新潟大学歯学部を目指すあなたに

新潟大学歯学部を卒業後、大学で10年、その後開業医として14年、歯科医になって24年が経とうとしているわけですが、毎日の臨床において常に充実感を感じて取り組んでいます。子どもから老人まで患者さんの生涯にわたって、健康に関わっていけることは歯科の魅力のひとつです。患者さんごとに異なる複雑な問題の解決のためには、歯科医としての知識と技術、経験を最大限に働かせていかなくてはなりません。患者さんの口腔内の健康が回復し、治療の結果に、ここからの笑顔で喜んでくれるときなどは、とてもやりがいのある職業だと感じられるときです。ここ数年、新潟大学は学部創設以来の個性あふれる教授から、若い教授にバトンタッチしてきています。多くの新潟大学出身の若い教授が誕生し、昔からの伝統を引き継ぎながらも、新しい分野を切り開いていこうというような熱気・活気が感じられます。次世代の歯科を担う君を新潟大学はきっと待っています。





**相田 恵**

ノースカロライナ大学医学部  
ニューロサイエンスセンター  
In situ Hybridization Core Facility  
ディレクター  
平成13年卒業

## 新潟大学歯学部からアメリカへ

歯学部に入学するという希望を持たれる受験生の皆様は、おそらく大部分の方が将来歯科医師になる事を目指していると思われます。私ももちろん歯科医師になる事を目標にし、歯学部卒業後2年間の研修期間を経て大学院に進学しました。何事もそうですが、新たな知識を得るほどもっと知りたいという意欲が湧いてきます。私はもう少し自分の研究を深く掘り下げてみたいと思うようになり、アメリカはワシントン大学で学ぶ機会をいただいて大学院終了後に渡米しました。渡米後は研究室にて自分の分野以外の研究にも携わらせていただき、また新たに研究技術を学ぶ機会も沢山ありました。ワシントン大学にて2年半の研究を終え、研究結果を論文にて発表する事もできました。しかしながら、ワシントン大学で身に付けた研究技術を生かしてもう少しアメリカでの研究事情を学びたいと思うようになり、2008年にノースカロライナ大学の研究施設にてディレクターを勤めさせていただく機会を得て現在に至ります。日々多くの研究者と仕事をして、さらに新しい知識を身につけるべく努力が必要な毎日ですが、アメリカでの研究生活は刺激的でもあり、とても充実しています。現在は実際に歯科医療に携わる事はありません。しかしながら、新潟大学歯学部で学んだ経験があるからこそ、今の自分があると思います。歯学部を目指す皆さんにも、歯科医師として世間へ貢献するのはもちろんの事ですが、その他に新潟大学 歯学部で学んだ知識を世界で生かせる可能性も限りなくあります。貪欲に自分の未来を切り開いていきましょう。



**藤山 友紀**

新潟市保健所健康衛生課  
平成12年卒業

## 目標に向かって

私は、歯学部2年生の時に、行政機関で働いている歯科医師がいることを知り、歯科保健行政に興味を持ちました。6年生になり、卒業後の進路を考え始めた時、行政機関で働くことを将来の目標として良いものか悩みました。それは、歯科医師が行政機関で働くことは、薬剤師や医師等と比べ狭き門だと感じていたからです。私は悩んだ末、「一先ず、目指してみよう!」と決め、新潟大学歯学部予防歯科学講座の門をたたきました。入局後、行政への思いを忘れることなく、色々なことに取り組んでいたら、厚生労働省で仕事をする機会を得、3年ほど医療機器の承認に関わる仕事をしました。その後、新潟市保健所に赴任し、以前から目標にしていた地域歯科保健行政の仕事に就き、現在に至っています。多職種の人たちと関係しながら仕事することは苦労もありますが、臨床の現場では味わうことができない多くのことを経験し、充実した日々を送っています。皆さん、沢山の経験をすることで、漠然としたものでも良いですから、まず目標を持って下さい。きっと素晴らしい未来が待っているはずです。頑張ってください。



**石山 友香里**

新潟市児童相談所  
平成21年卒業

## 大学で得たもの

私は平成21年口腔生命福祉学科を卒業してから、新潟市役所の職員として働いています。福祉職での採用であり、新潟市児童相談所に配属となりました。1年目は相談判定係で、電話や面接で主に児童相談所に初めて相談をする方の相談を受けるなど、いわゆる児童相談所の窓口としての業務に携わっていました。平成22年度からは、一時保護係に配属となり、一時保護所で仕事をしています。一時保護所では、様々な事情によって自宅で生活することができない児童が保護されており、主な業務は子ども達の生活指導です。1年目と2年目とでは仕事の内容は大きく異なりますが、どちらの仕事でも、大学で学んだことは大きく活かされていると思います。特に、この学科の特色であるPBL(問題発見解決型学習法)で学習してきたことはとても役立っていると思います。仕事をしていく中で、いろいろと身につけねばならないと感じることは多くありますが、自分で本など資料を調べて学習し、知識を得ることは、あまり苦にならないように感じます。それから、歯科衛生士の資格も取得していることで、子ども達に歯科保健指導をしたり、日常的に歯に異常がないか見てあげることもできます。今後も大学で学んだ知識、経験をベースに、子ども達をはじめ市民の皆さんに貢献できる職員になれるよう頑張っていきたいと思っています。

## クラブ活動

Club Activities

### 運動部

- スキー部 ●バレーボール部 ●卓球部 ●弓道部
- バドミントン部 ●剣道部 ●ゴルフ部 ●硬式テニス部
- 軟式野球部 ●バスケットボール部 ●サッカー部
- 水泳部 ●柔道部

### 文化部

- 軽音楽部 ●茶道部
- 能楽研究会

※自分の好きなクラブがない場合は、仲間を募ってクラブをつくることも可能です。歯学部学友会がバックアップします。



### 幅広い人間形成の養成

歯科医療は高い技術があるだけでは失格です。豊かな人間性が求められます。学生時代にクラブ活動をして、沢山の友人を作り、人間性を養いましょう。歯学部の学生は平均2つのクラブ活動に参加し、学生生活を実りあるものになっています。

### 全学のクラブ

新潟大学は1万人以上の学生が学んでいる総合大学です。全学的なサークル活動も盛んです。いろいろな学部の学生と交流し、豊かな人間性を養ってください。歯学部在籍し、全学ポータ部に所属し、アジア大会優勝、アトランタオリンピックに出場した学生もいました。

### 全日本歯科学学生総合体育大会

全国29歯科大学及び歯学部の学生による全国規模の体育大会で、25種目に約1万人の歯科学学生が参加します。冬季部門3種目、夏季部門22種目で、部門優勝と総合優勝を競います。

新潟大学歯学部の各運動部も毎年参加しています。

# イベント

Events

歯学部は講義・実習に追い回されるのでは？と思っている人も少なくないでしょう。確かに、学生たちは歯学部の6年間ないしは4年間の生活でいろいろな知識、技術そして人間関係を勉強しています。忙しい中でも、学生が主体となり企画、実施しているイベントがいくつかあります。歯学部歯学科の一学年の定員40人、口腔生命福祉学科は20人です。高校の1クラスとほぼ同じか、その半分の人数で、大学教育としてはきわめて少人数の単位なのです。想像してみてください。クラスが一致団結して、目標に向かう姿を。



## 歯学部運動会

例年、5月の上旬又は中旬の土曜日に歯学部運動会が学年対抗で開かれます。学生の学生による学生のための運動会ですが、各学年ごとのチームに教員が参加し、優勝を目指します。

## 歯学祭

歯学部の文化祭ともいうべきもので、11月初旬の土・日に歯学部及び医歯学総合病院で行われます。歯学部を一般の人に知ってもらう展示を中心に、病院の教員の協力による無料歯科相談、軽音楽部の演奏、著名人を招いた講演会などいろいろな企画が行われます。

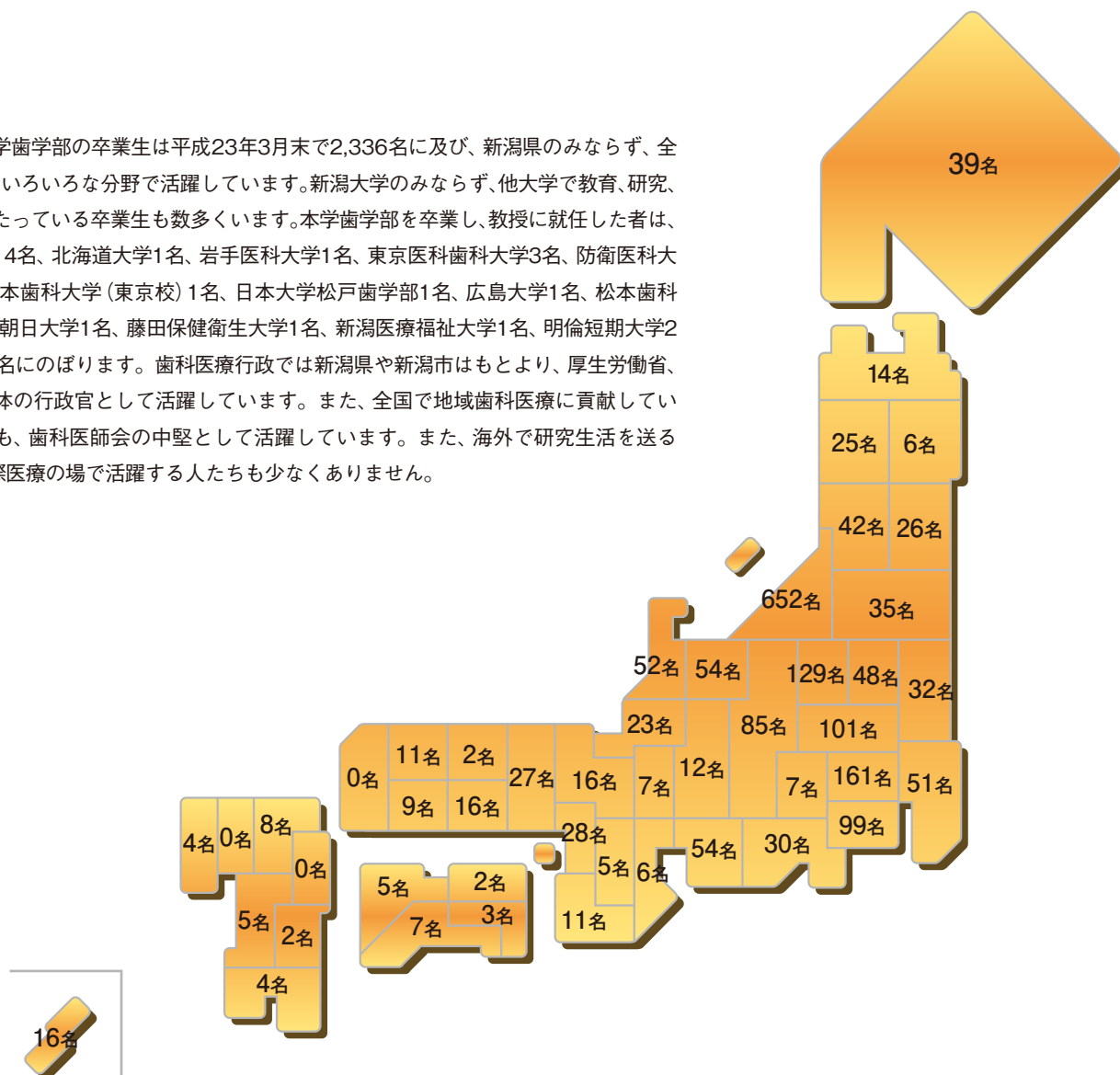
## スポーツ大会

休日を利用した、運動部が主催する各種スポーツ大会の開催も頻繁です。サッカー、バレーボール、テニス、バスケットボール、ソフトボールなどを大いに楽しみます。教員もチームを作り、学生に負けるものかと張り切って、ボールを追いかけ、白熱したプレーを披露しています。

# 各地で活躍する卒業生

Alumni Association

新潟大学歯学部は平成23年3月末で2,336名に及び、新潟県のみならず、全国各地で、いろいろな分野で活躍しています。新潟大学のみならず、他大学で教育、研究、診療にあたっている卒業生も数多くいます。本学歯学部を卒業し、教授に就任した者は、新潟大学14名、北海道大学1名、岩手医科大学1名、東京医科歯科大学3名、防衛医科大学1名、日本歯科大学（東京校）1名、日本大学松戸歯学部1名、広島大学1名、松本歯科大学3名、朝日大学1名、藤田保健衛生大学1名、新潟医療福祉大学1名、明倫短期大学2名の計30名にのぼります。歯科医療行政では新潟県や新潟市はもとより、厚生労働省、地方自治体の行政官として活躍しています。また、全国で地域歯科医療に貢献している開業医も、歯科医師会の中堅として活躍しています。また、海外で研究生活を送る者や、国際医療の場で活躍する人たちも少なくありません。



## 同窓会会長からのメッセージ



**多和田 孝雄**  
新潟市開業  
歯学部同窓会会長  
昭和51年卒業  
第6期生

新潟大学歯学部は昭和40年に東京医科歯科大学歯学部、大阪大学歯学部に次いで国立大学3番目の歯学部として誕生しました。以来現在までに歯学科41期口腔生命福祉学科4期2,336名が卒業し、全国各地で活躍しています。

同窓会においても北海道から沖縄県まで17同窓会支部が設立され、会員の交流や親睦に役立っています。

歯科医師を目指す者は6年間の研鑽を積み、卒業後国家試験に合格しなければなりません。歯学部の卒業生はほとんどが歯科医療従事者となりますので、他学部受験生と違い、受験時に職業を選択することになります。

すでにご承知と思いますが、歯科医師過剰の地域が増えています。しかし、大学を中心とした多くの研究者が歯科の領域拡大に多大な努力をしています。最近では旧来の虫歯や歯周病の治療に加えて、口腔機能の見直しやそのケア、審美、容貌の改善に至るまで、益々拡大の兆しが認められます。皆さんの若い力や感性を必要とする場が出来ます。

新潟大学歯学部教育の理念を以前の歯学部長が次のように述べました。「人類の福祉増大と、人類の歴史を創造するに積極的な役割を果たすべく、より進んだ歯科医学を築く研究心のある歯科医師を育てることを目標とする。」

われわれは熱意あるあなたを待っています。

新潟大学歯学部ではわれわれとともに21世紀の歯科医療を担う優秀な若人を広く募集しています。本学部の入学試験には以下の3通りの方法があります。すなわち、最多で3回のチャンスがあるということです。なお、帰国子女を対象とした特別入試（歯学科）や、第3年次編入学試験（平成18年度からは口腔生命福祉学科においても）も実施しています。



## 特別入試

**（推薦入試：歯学科、口腔生命福祉学科）**

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、個別学力検査（いわゆる2次試験）を免除し、大学入試センター試験、個人面接、小論文、調査書を総合的に判断して合格者を決定する方法です。この方法で出願できるのは現役生だけです。1月下旬に実施します。

## 一般入試

**（前期日程：歯学科、口腔生命福祉学科）**

大学入試センター試験、個別学力検査及び面接試験の成績で合格者を決定する方法です。個別学力検査及び面接試験は2月下旬に新潟大学歯学部で実施されます。

## 一般入試

**（後期日程：歯学科）**

個別学力検査を免除し、大学入試センター試験と面接試験の成績で合格者を決定する方法です。面接試験は3月中旬に新潟大学歯学部で実施されます。

平成23年度

		特別入試（推薦入試）	一般入試（前期日程）	一般入試（後期日程）
歯学科	募集人員	10	22	8
	志願者	13	103	116
	倍率	1.3	4.7	14.5
口腔生命福祉学科	募集人員	5	15	／
	志願者	11	83	／
	倍率	2.2	5.5	／

※なお、各選抜試験ごとの募集人員及び入試科目などは変更される可能性があります。詳細は例年11月に発表される募集要項を参照してください。

## 入学試験に関するお問い合わせは

〒951-8514 新潟市中央区学校町通2番町5274番地  
新潟大学医学部歯学系歯学部事務室学務係  
025-227-2798・2799

e-mail : [gakumu@dent.niigata-u.ac.jp](mailto:gakumu@dent.niigata-u.ac.jp)

URL : <http://www.dent.niigata-u.ac.jp/>

## ACCESS



### 新潟駅からバスに乗る場合

新潟駅前(万代口)から、市内バス「川岸町・県庁前」行き、「信濃町先回り浜浦町」行き、または「新潟大学・内野」行きに乗車し、「市役所前」下車。新潟市役所のはすむかい、徒歩1分です。

### JRを利用する場合

新潟駅で越後線に乗り換え、一つ目の「白山駅」下車、徒歩15分です。

### 高速道路を利用する場合

北陸自動車道新潟西インターチェンジで高速道路を出て、新潟バイパスに入り、桜木インターチェンジで降ります。昭和大橋方面に直進し、約10分で到着します。

### 飛行機を利用する場合

新潟空港からタクシーに乗り、約30分です。



## 新潟大学歯学部

新潟市中央区学校町通2番町5274番地  
TEL.025-223-6161 (代表)

[歯学部]

<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/>

[医歯学総合病院歯科]

<http://hosp.dent.niigata-u.ac.jp/>